



ご利用の皆様へ

副院長・緩和ケア病棟医長 龍澤 泰彦



「緩和ケア病棟ってどんなところ？」

当院は「石川県がん診療連携推進病院として、がん疾患に対し、診断から緩和医療までの一貫した、専門的かつ総合的な取り組みを推進します」ということを基本方針の一つとして掲げています。今回は当院の大きな柱の一つである緩和ケア病棟についてご紹介します。

さて、皆さんは緩和ケア病棟というどのようなイメージを持っておられますでしょうか？「最後の最後に行くところ」「一度入ったら二度と出られない」「何にも治療しないところ」「入院待ちが1～2か月もあり、なかなか入れないところ」……。もしかすると一般の方々だけではなく、医療・福祉従事者の中にもいまだにこのように思っておられる方が多いのではないのでしょうか。

緩和ケア病棟入院料の施設基準によりますと、平成20年には緩和ケア病棟とは、「苦痛の緩和を必要とする悪性腫瘍及び後天性免疫不全症候群の患者」が対象であり、「外来や在宅への円滑な移行も支援する病棟」とされています。平成28年には「在宅患者が緊急入院できる体制を確保すること」「24時間連絡を受ける体制を確保していること」などの文言も加わっており、決して最後の最後に行くところではなく、地域との連携、在宅療養のバックアップということがより強調されるようになってきました。

これは診療報酬にも反映されており、平成24年からは入院期間が短い間ほど入院料は高くなり、61日以上になるとそれまでよりも低く設定されるようになりました。また、今年度からは「平均在棟日数が30日未満かつ平均待期期間が14日未満」または「在宅に移行した患者が退院患者全体15%以上」であった場合、入院料はこれまでよりもさらに高くなり、2つの要件のいずれも満たしていない場合は入院料が下がることになりました。国の方針として、世の中全体的に入院から在宅へという流れになっていますが、緩和ケア病棟の診療報酬上も同様な流れになっていると言えます。

当院の緩和ケア病棟は平成7年1月より緩和ケア病棟入院料を算定するようになり、今年24年目を迎えました。開設当初数年間は年間のべ入院患者数が80～100人前後でしたが、その後徐々に増加し、平成24年以降は毎年200名以上になっています。当病棟の現状として、

- ・在宅の患者さんから緊急入院の要請があった場合は、夜中であろうと必ずお引き受けしている。
- ・平均在棟日数は、平成16年の73.7日から平成27年には28.2日まで短くなったが、平成28、29年は30日を若干オーバー。
- ・他院入院中の方の場合、転院の相談を受けてから転院までの平均待期期間は7～10日。
- ・在宅復帰率はここ数年15～20%をキープ。

となっています。いったん入院しても症状が安定すればまた自宅へ戻ることも可能であり、他院からの転院も可及的速やかに行っています。診療報酬が改定される以前から、患者さんの意向を尊重し、患者さん・ご家族の方との話し合いを重ね、希望を支えることを第一に考えてまいりました。その結果、自然と平均在棟日数が短縮し、在宅復帰率もある程度の数字を保っているようです。

今後とも在宅との連携を密にとり、患者さん・ご家族の意向に沿った支援ができるよう取り組んでまいります。ご指導・ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

第2回接遇講演会を開催

9月27日、今年度2回目となる「接遇講演会」を当院討議室にて開催し、職員36名が参加しました。

(株)医療サポートの中野みさを氏を講師にお招きし、「ホスピタリティ研修～選ばれる病院 必要とされる自身の在り方～」をテーマに約1時間ご講演をいただきました。

特に患者さんとの信頼関係を築くためのスキルである、バックラッキング(相手の言葉・気持ちを繰り返し伝えながら、話を進める方法)のお話では、参加者の多くが関心を寄せていました。

『手術不安だなあ』に対し『大丈夫や、何も心配いらん』や、『どれくらい時間かかりますか』の問いには『もうちょっとここで待って』など、これは講師の身内の方が実際に入院生活で不快に感じた内容とのことであり、職員の中には自省していた方もいたように思います。

個人、そして病院全体でホスピタリティ精神の向上に日々努め、多くの患者さんに支持される病院へとさらなる成長を目指して参加者一同心新たにしました。



「地域連携の集い」を開催



第7回「地域連携の集い～人が人を支援すること～」が10月5日、金沢東急ホテルにて開催され、地域の医療機関や介護保険関連施設などの関係機関より99名、院内65名、計164名が参加しました。

今回は、多重債務の当事者となった経験から貧困問題に取り組み、様々な相談活動に携わっている、NPO法人金沢あすなろ会の三井美千子様にご講演いただきました。当事者が、仲間や支援者との出会いや活動を通して、自ら問題解決に向かう力をつけていくことができるという実践報告、また支援者側に当事者への偏見がないか、という点に留意し、信頼関係を構築していくことの重要性について教えていただきました。

毎年開催しているため、参加される関係機関同士のつながりも深まり、今後も共に学び合うことのできる連携を大切にしていきたいと思ひます。

来年度は、金沢で済生会生活困窮者問題シンポジウムを開催致します。地域の方々、関係機関の皆様と人が人を支援することについて、さらに学びを深めていきたいと思ひます。

メディカルカフェ金沢 ～なでしこ 暮らしの相談会～

10月18日、当院エントランスホールを会場に、『がんサロン』メディカルカフェ金沢を開催し、多くの方々にご参加いただきました。

がんの症状や治療により、食欲不振になっている患者さんに、食べやすく、栄養満点のレシピを栄養部職員が考案し、患者さんをはじめ、ご家族にも試食していただきました。

メニューは、金時草や野沢菜の一口お寿司、カレイの煮付け、たっぷり野菜のコンソメスープなどで、中でもカレイの煮付けは、多くの患者さんやご家族から「骨もなく食べやすく、味もとても美味しい！」と大人気でした。

この試食を通して、普段の食事の悩みに対するアドバイスや効率的な栄養の摂り方などのやり取りも行われ参加者の皆さんには有意義な機会を提供できたのではないかと考えています。その他、アロママッサージや簡単エクササイズなども行いました。

今後も楽しんで参加して頂けるイベントを企画し、患者さんやご家族の心配事や不安を一緒に考えていきたいと思えます。



ソフトボールチーム大健闘!!

石川県勤労者秋季体育大会 県決勝大会で準優勝

10月21日(日)に開催された、石川県勤労者体育大会 県決勝大会で、当院のソフトボールチームが準優勝に輝きました。この大会へ出場は、予選の意味合いもあった夏季体育大会(金沢大会:7月)で3位の好成績を残したことで、出場権を頂きました。

相手も同じく県内各地区で上位の成績を残されたチームばかりで、男女混合の済生会金沢病院チームは勝ち上がっていくことは難しいと思っていましたが、蓋を開けてみると女性陣の活躍で1・2回戦をいずれも劇的なサヨナラ勝ちで勝ち進み、決勝までたどり着くことが出来ました。



しかし、決勝戦は、ここ数年この大会を連覇している常勝チームに手も足も出ず完敗しました。

初のタイトルこそ逃しましたが、今シーズン最後の試合(大会)で良い結果を残せたことで、来年度当院が主催する「済生会北信越ソフトボール大会(金沢大会)」の弾みになりました。

大会日程は未だ決定しておりませんが、大会を盛り上げられるようソフトボールチームは一致団結して頑張りますので、応援よろしくお願ひします。

院内文化祭・コンサートを開催

去る11月1日から11月9日までの9日間、当院エントランスホールにて恒例の院内文化祭を開催。患者さんや職員、地域の二塚公民館からも作品を募集し、手芸や書画など約40点を展示しました。

文化祭最終日には、オーケストラ・アンサンブル金沢名誉団員のチェロ奏者をはじめ、プロの歌手やフルート、ピアノ奏者による「秋の昼下がりのコンサート」が行われ、プロの奏でる繊細かつ重厚な音色や澄みわたるソプラノの高音に、訪れた患者さんら約70人の観客が魅了されました。

アンコールでは“ふるさと”を合唱し、会場全体が温かい空気に包まれ、皆さんの穏やかな笑顔がとても印象的でした。



◆ 新規着任医師 ◆



整形外科 五十嵐 峻

(いがらし たかし)

10月より当院の整形外科(専門は脊椎)に着任した五十嵐と申します。出身は仙台で東北地震でも現地におり、医療に携わっておりました。地域の皆様が気軽に受診できる外来診療を心がけていきますので、宜しくお願い致します。



眼科 森 奈津子

(もり なつこ)

平成30年11月より眼科に赴任致しました、森奈津子と申します。今年で医師11年目になります。入局以来、金沢大学病院で角膜疾患を中心に研鑽を積んできました。眼科医として地域医療に少しでも貢献できるように頑張りたいと思います。宜しくお願い致します。